

行動科学研究所

Behavioral Science Laboratory

研究所の概要

1. 目的

本研究所では、人間のあらゆる行動を対象として科学的アプローチにより分析することで、人間の行動の持つ様々な特性を明らかにするとともに、よりよい行動につながるために必要となる理論、モデルの構築を行い、社会活動全般を効果的に支援することを目指します。



所長

細田 貴明

HOSODA Takaaki

2. 設置期間

2021年4月1日～2026年3月31日

キーワード

人間行動、意思決定、個人、社会、
認知、心理

3. メンバー

11名（所長を除く）

4. 活動概要

- 人間の行動の本質を解明し、より良い意思決定を行うための支援
- 行動科学マネジメントに基づく企業へのコンサルティング
- 研究成果の社会への還元
- 事業革新のための意思決定支援活動を推進する。
- 大学院生・若手研究者へのビジネス知識の提供

令和6（2024）年度の研究活動内容及び成果

1. 活動内容

（1）国内外の学会への発表及び論文投稿

研究所所属の研究員および所長の活動成果を、国内学会および国際会議において広く情報発信を行う。また成果の一部については論文投稿を行うことを目指す。

（2）各種研究会の開催

研究所所属の研究員の研究内容をもとに研究会を開催し、広く参加者を募る。

（3）アカデミック分野の研究成果およびビジネス事例を基にした勉強会

上記研究会の内容を広く伝えるために、勉強会を開催する。

（4）シンポジウムの開催

年度内の研究成果をまとめシンポジウムを開催し、活動内容について広く情報発信を行う。またシンポジウム開催にあたっては、他研究所または他機関との連携を図り活動の幅を広げることに努める。

2. 成果

(1) 国内外の学会への発表及び論文投稿

研究員が多数の学会発表および論文投稿を行った。詳細は [Research map](#) の論文、講演・口頭発表等のページを参照。

(2) 各種研究会の開催

研究員のテーマである、意思決定問題、エンゲージメント、高齢者研究に関する研究会を定期的に開催。

(3) アカデミック分野の研究成果およびビジネス事例を基にした勉強会

(2) の内容について、その内容の基礎について勉強会を開催。

(4) シンポジウムの開催

富士大学地域経済文化研究所と共催で” 行動科学を活用して築く、新しいライフスタイル” シンポジウムを開催。

令和7年度の計画

(1) 国内外の学会への発表及び論文投稿

研究所所属の研究員および所長の活動成果を、国内学会および国際会議において広く情報発信を行う。また成果の一部については論文投稿を行うことを目指す。

(2) アカデミック分野の研究成果およびビジネス事例を基にした研究会

研究所所属の研究員の研究内容をもとに研究会を開催し、広く参加者を募る。

(3) シンポジウムの開催

年度内の研究成果をまとめシンポジウムを開催し、活動内容について広く情報発信を行う。またシンポジウム開催にあたっては、他研究所または他機関との連携を図り活動の幅を広げることに努める。